

戦後80年

恒久平和への願い

次世代へつなぐ

平和の像 (JR市川駅北口)
「核兵器廃絶平和都市宣言」の
シンボルとして平成6(1994)
年に設置されました

戦争の記憶

終戦から80年がたち、当
時のことを語ることができる
戦争体験者が少なくなっ
ています。今号では、市内で戦
争を体験した方にお話を伺
いました。

市内での戦争
体験の話 (8月上
旬公開予定)

自分の思うように人生を歩める
ことがいかに幸せなことか

当時から南行徳で暮らす
矢島さん (昭和2(1927)年6月生まれ)

終戦の日は、いつもは鳴り渡る空襲警報がなく、天気のようにとても静かな日でした。
18歳だった私は自宅で終戦の玉音放送を聞きました。ホッとする気持ちはなく、「米軍に占領されたら日本はどうになってしまうのか」と、恐怖を感じたことを覚えています。
戦時中、家が貧しかった私は、仕事をしながら夜間中学校に通い、学徒出陣に備えて厳しい軍事教練を受けつつ徴兵されるのを待っていました。当時、貧しい家は防空壕を持てず、私の家も借り家でしたので、避難する防空壕はありませんでした。空襲警報が鳴ると家の電灯を消し、家族7人が息を潜めて固まり、警報が止むのをひたすら待ちました。生きた心地がせず、運を天に任せるしかないどうにもならなかった日々が今も忘れられません。
誰もが「天皇陛下のために忠誠を尽くす」その思いしかありませんでした。大人も子どもも、国を守るためにおのおのの立場で一生懸命奉公しないといけない、その思いで飢えや空襲の恐怖に耐えました。戦火で玉砕したとしても命を惜しむ人はいませんでした。
飢えも戦火の心配もない平和な時代になりました。平和がいかに尊く、また自分の思うように人生を歩めることがいかに幸せかを感じています。

戦死者への追悼の思いを表す機会や平和を考える
催しに参加してみませんか。

戦死者に祈りをささげる

先の大戦で亡くなった方々の冥福と、
世界の恒久平和を祈りましょう。

図 7 1 2 8 6 1 8 地域共生課

原爆犠牲者ならびに戦没者に黙とうを

原爆が投下された8月6日午前8時15分(広島)と9日午前11時2分(長崎)に黙とうをさ
さげましょう。また、8月15日には日本武道館で「全国戦没者追悼式」が行われます。式
典当日の正午には1分間の黙とうをささげましょう。

戦没者追悼献花式

どなたでも自由に献花できます。また、戦
争の記憶を後世に伝えるため、戦時下の写真
や資料などを展示します。

図 8月14日(木)午前11時～午後5時・15日(金)
午前9時～午後5時
場 図1 ファンクシ
ンルーム

会場に献花のための
花を用意しています

戦争遺品の思いに触れる

市では、遺族から寄せられた戦争遺品を、戦
没者追悼献花式で展示しています。

【千人針】

戦争に行く
兵士が弾丸に
当たらないよ
うに、そして無事に帰ってきてほしいとの願い
を込めて、千人が一針ずつ刺して完成させたの
で「千人針」と呼ばれました。多くの兵士が身
に付けて出兵していきしました。

平和ポスターを募集しています

児童・生徒の心で捉えた「平和」を訴えるポス
ターを募集しています。優秀作品は、翌年のカレン
ダーに掲載して平和啓発活動
に活用します。

応募資格

市内在学の小・中学生

応募方法

各学校から配布された募集要
領を確認の上、各学校に提出

平和について考える

知って参加して 平和を考える機
会にしませんか。

図 7 1 2 8 6 4 3 総務課

終戦を迎えた80年前の8月15日、市内は青空が広がり、
とても静かな日だったといわれています。時がたつとこ
に戦争体験者は減り、戦争は他人事となりつつあります。
この節目の年に、日本が経験した戦争の過程や悲惨さを
改めて学び、平和の大切さを考える機会にしませんか。

図 7 1 2 8 6 4 3 総務課

市立学校での平和に関する学習

▼福越小学校での講話の様子

本市は、昭和59(1984)年11月15日に「核兵器
廃絶平和都市宣言」を行い、核兵器の廃絶・生命
の尊厳・恒久平和の確立を訴えて
います。また、市立学校での被爆
体験講話など、さまざまな平和啓
発事業を通して平和の大切さを伝
えています。

▲宣言全文は
こちら

日本原水爆被害者団体協議会 (以下、日本被団協)が ノーベル平和賞を受賞

核兵器が二度と使われてはならないと被爆の
証言を国内外に絶え間なく伝え続けてきたこと、
及びその活動によって戦後今まで核兵器が使用
されなかったことが評価され、令和6年10月に受
賞しました。

核兵器のない世界に向けて

80年前に投下された2発の原爆で、広島では約
14万人、長崎では約7万人の方々犠牲になり、今
も後遺症などで苦しむ方々がいます。もし、現代
技術でつくられた核兵器が使用されたら。みなさん、
想像してみてください。令和7年6月現在、世界
9カ国で9,615発の現役核弾頭が保有されています
(出典＝『世界の核弾頭データ』2025年版)。

世界唯一の被爆国に暮らす者として、体験談に
耳を傾け、大切な人と思い共有し、つないでい
きませんか。

戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、後世に伝
えることを目的に、8月5日～7日の3日間、次代を担
う市立中学校各校の代表生徒を広島へ派遣しま
す。中学生が見て聞いて感じたことを、今後、市
内に広く語り継いでもらいます。

被爆体験講話

市川被爆者の会の方の講話を通じて、戦争の
悲惨さや核兵器の恐ろしさを伝えています。

日本被団協のノーベル平和賞受賞によ
り、今までより多くの子どもたちに「伝
えること」の使命を感じています。講話を聴
いた子どもたちが、戦争も核もない未来
を生きるために自分にできることを考え
るきっかけとなるよう、思いを込めて話
しています。一人でも多くの子どもたちに戦争
の悲惨さを伝え、核兵器のない未来につな
がるよう、講話を続けていきたいと思っ
ています。

▶児玉さんの講話

日本被団協 事務局次長
市川被爆者の会 会長
児玉さん

市川被爆者の会
副会長
井上さん

戦後50年の時間がたってから、やっと人前で自分の体験
を話すことができるようになりました。
「被爆者以外の誰が、この地獄の体験を繰り返さないよ
うに後世に伝えることができるのか」と思い立ち、94歳に
なった今も講話を続けています。

講話を聴いた子どもから「井上さんに代
わって、次は私が戦争はいけないと話をしま
す」と書かれた手紙をもらった時は、本当に
嬉しかったです。

▲井上さんの講話

▲講話を聴いた児童

講話を聴いたり写真や絵を見たりして、つらくて、胸が
痛くなりました。遠い世界の話だった戦争が現実のもの
に感じられ、今の平和が当たり前のものじゃないことが分
かりました。戦争についてもっと知りたいという気持ちに
なったし、今日の話を聴いて感じたことを家族に伝えたい
と思いました。

中学生を広島に派遣します

心のゆとりは笑いから「平和寄席」

笑いを通して平和の大切さを体感してください。
(出演者)柳家三三、柳亭小痴楽、きょうこ(和妻)、桂鷹治、前座
図 10月25日(土)午後1時30分(開場は30分前)～3時40分
場 文化会館
図 8月29日(金)までに上記2次元コードで申し込み(同時に4人まで申し込
み可)、または往復はがきに参加者全員(1枚につき2人まで)の申し込み事項
(6面上段参照)、コメント「あなたが平和を感じるときはどんなときか」、車椅子
での来場の場合はその旨を書き、同日まで(消印有効)に総務課(〒272-
8501 住所不要)。結果通知は9月26日(金)までに発送予定(申し込みの際
にいただいたコメントは後日、市公式Webサイトに掲載します)

▲柳家三三

▲柳亭小痴楽

核兵器のない未来を目指す 自治体間連携イベントを開催します

終戦80年の節目の年に改めて世界の恒久平和を願い、
核兵器のない平和な社会を築いていくための自治体間連
携イベントです。後日、本紙などで参加者を募集します。
図 11月12日(水)午後1時～3時 場 文化会館
図 ①日本被団協代表委員 田中照巳氏による講演
②「核兵器廃絶平和都市宣言」を行っている関東地方の
市長同士の意見交換、など

日 日時 場 場所・会場 内 内容 講 講師 対 対象・人数 費 費用・料金 持 持ち物 申 申し込み・応募 問 問い合わせ 第1庁舎 第2庁舎 行 行徳支所 子どもにおすすめ 市川市の市外局番は047

これまでの「広報いちかわ」が市公式Webサイト・検索 広報 (https://www.city.ichikawa.lg.jp/pla04/1111000009.html) でご覧になります。